



代表取締役 専務執行役員

西本 馨

## 健康・農業関連事業

自社の研究開発力を基盤に、  
世界の食糧、健康・衛生、  
環境問題の解決に貢献します。

住友化学の健康・農業関連事業部門では、特長ある農薬・農業資材やメチオニンなどをグローバルに提供することで、食糧の生産性向上に寄与しています。

当社は、自社開発の優れた化学農薬に加え、バイオラショナルやポストハーベストなど高いシェアを持つユニークな農薬や農業資材を品揃えしており、これらをグローバルに販売しています。特長ある農薬の品揃えとそれを生み出す研究開発力に加え、グローバルな販路を有することが当社の農薬事業の強みとなっています。また、メチオニン事業では、高い生産技術を活かし、製品を原料から一貫生産し安定供給しています。

現在は、農薬・農業資材の製品力のさらなる強化、グローバルフットプリント（自社の販売網）の拡大、既存製品の収益最大化に取り組んでいます。加えて、メチオニンの生産能力を拡大し、同事業のアジアでのリーダーとしての地位を確固たるものにすることを目指しています。

2017年度は、次世代大型農薬の開発が進展し、一部の農薬の登録申請を開始しました。また、これらの大型農薬の販売を最大化すべく、海外の大手農薬メーカー（Bayer/BASF/Corteva Agriscience™）との開発・商業化における協力関係を新たに構築しました。また、当社が強みを持つ生活環境用殺虫剤およびバイオラショナル事業の競争力をさらに強化するための事業買収なども行いました。

今後も、次世代大型農薬の開発を加速し早期の上市を目指すほか、バイオラショナルやポストハーベストなど当社が強みを持つニッチ分野の事業の拡大にも取り組みます。さらに、買収やアライアンスを行ったパートナーとの協業を強化し、事業機会の拡大を目指していきます。また、2018年度のメチオニン新プラントの稼働に向けた販売体制の強化にも取り組んでいます。

自社の研究開発力を基盤に、世界の食糧、健康・衛生、環境問題の解決に貢献することで事業規模を拡大することを今後も目指しています。

	2017年度実績	2016年度比	2016～2018年度 中期経営計画 部門目標 2018年度計画
売上収益（億円）	3,397	+191	4,400
コア営業利益（億円）	440	-35	890
SSS※売上収益（億円）	1,165	+105	

※ Sumika Sustainable Solutions

### 重点的に取り組むSDGs



## 主要事業の現状

- 高い研究開発力と充実したパイプライン
- ニッチ分野でのユニークな技術・製品
- 高シェアを有する製品群
- 海外大手メーカーとの提携関係
- 国内におけるトータル・ソリューションの提供

- 人口増加に伴う食糧需要の拡大
- 農業関連事業の事業規模拡大
- 生活環境事業の周辺・川下分野での事業機会



- 競合大手と比べ小さい事業規模
- グローバル販売チャネル

- 農薬の規制強化
- オフパテント農薬との競合拡大
- 大手競合メーカーの合従連衡

## 主要事業の主な取り組み

### ■ 農業関連事業

国内の農薬・肥料事業では、魅力ある新製品の自社開発、製品導入などにより、シェア拡大や事業領域の拡張に取り組んでいます。また、農業関連資材・技術の提供から農産物の生産・販売まで農業経営を総合的に支援する「トータル・ソリューション・プロバイダー(TSP)」型ビジネスの一環として、コメの生産・販売事業を行っています。

海外の農薬事業では、事業規模拡大を目指し、事業提携や事業投資を加速させています。当社が18%出資する豪州の農薬会社ニューファーム社と31カ国(2018年6月現在)で農薬の相互販売を実施しているほか、販売・開発分野における複数の大手海外農薬メーカーとの提携を積極的に進めています。農薬の開発を加速させるため、研究開発体制の強化もグローバルに進めており、2018年には創薬・イノベーション拠点として合成研究棟を、バイオラショナルの研究開発拠点として北米にバイオラショナルリサーチセンターを新設しました。



農薬製品



家庭用殺虫剤製品

### ■ 生活環境事業

生活環境事業は、家庭用殺虫剤、防疫用殺虫剤、熱帯感染症対策事業関連製

品、動物用医薬品などのグローバルな事業展開を通じて、人々の安心、快適な暮らしの環境づくりに貢献しています。

### ■ 飼料添加物事業

飼料添加物事業では、主に鶏などの家禽用飼料に添加される必須アミノ酸の一種であるメチオニンの生産・販売を行っています。年間130万トン程度のメチオニン市場は、世界的な人口増加や、新興国での食肉文化の広がりなどを背景に、年率6%程度の成長が期待されます。アジアのトップメーカーとしての地位をさらに強固なものとするため、2018年に生産能力を年10万トン加えた年25万トンへと増強し、新規の優良顧客などへの販売拡大を目指しています。



DL-メチオニン、  
メチオニンヒドロキシ  
アナログ

### ■ 医薬化学品事業

住友化学は、国内外の製薬企業に医薬品の有効成分(原薬)およびその中間体を供給しています。また、次世代の医薬品である核酸医薬品(核酸の働きを利用し病気を引き起こす遺伝子やたんぱく質に作用)の原薬の受託製造を行うことで、事業規模の一層の拡大を目指します。



医薬原薬

### 主要経営資源（インプット）

#### 知的資本

化学農薬およびバイオリショナル（微生物農薬）に関する長年の知見の蓄積をもとに、研究開発を推進しています。

#### 人的資本

世界各地でスタッフが、グローバルなネットワークを活用し研究開発を行っています。



グローバルな研究開発のための  
創業・イノベーション拠点である  
健康・農業関連事業研究所  
合成研究棟  
「ケミストリーリサーチセンター」

### バリューチェーン



原料メーカー

ペーラント  
バイオサイエンス社  
オセージ工場



住友化学グループ  
原体・製品の製造

### 競争優位を生む主要プロセス

**研究：**探索研究では新しい農薬の有効成分を探します。ここでは効果だけでなく、人や環境への安全性も評価します。グローバルな開発研究ネットワークを活用して、できるだけ早く新しいソリューションを開発できるよう取り組んでいます。また、既存の有効成分を活用して新しい農薬製剤や使い方を提供するための応用開発にも力を入れています。



健康・農業関連事業研究所

### 住友化学の競争優位性

#### ■ 市場の競争状況

世界の農薬市場には、欧米の大手メーカーから比較的小規模の小さなメーカーまで、多数のメーカーが存在しています。農薬は地域や作物によりニーズが大きく異なります。当社は、化学農薬とバイオリショナルからなる製品ポートフォリオを活かして、世界の各市場でユニークなポジショニングを追求しています。

#### ■ 競争優位性

住友化学は、研究開発にコミットしており、新規ソリューション開発のために基礎的探索研究から応用開発研究まで長期的視野で取り組んでいます。これらの取り組みを通じて得た独自の製品や技術が、当社の競争優位性の基盤となっています。

#### ■ 競争優位性強化の取り組み

2018年に、健康・農業関連事業研究所に合成研究棟を新設しました。この新しい研究棟では、新薬探索から工業化の検討までの研究機能を集約し、より効果的な開発を迅速に進めます。また2016年にブラジル、2017年に米国中西部に研究圃場を新設し、より多様な環境での試験を行うことで新製品の開発を加速しています。

### 収益構造・けん引役

世界の農薬市場はおよそ600億ドルの規模があり、年率3%程度の成長が期待されています。住友化学は、研究開発を通じて得られた高い技術を通じて、効果が高く、市場のニーズにあった製品を次々と上市することで収益率の向上を目指します。2017年には、次世代大型製品群の開発が進展し、一部の新製品の農薬登録申請を行いました。こうした製品は2020年以降の上市を予定しています。

## 社会に提供する付加価値

農薬メーカーである住友化学は、農薬の研究開発・登録・製造を通じて作物保護のための製品を提供します。これらの製品は卸や小売を通じて販売され、農家で使用されます。



顧客  
卸・小売・農協



消費者  
農家

### 顧客・消費者ニーズ

農家は、農薬を使用することで、農作物の品質および収量を向上させたいと考えています。また、農作業を効率化し、収益性を高めることも期待しています。それと同時に農薬が農薬の使用者や農産物の消費者の健康に害を及ぼすことのないように、安全・安心も追求しています。

### 顧客価値提供

住友化学は、顧客のニーズにあった効果が高くユニークな製品を提供します。地域や作物ごとのニーズをとらえたソリューションを作り出すことで、持続可能な新しい農業技術の構築に貢献します。



バイオラショナルの  
技術指導の様子



### 食糧の生産性を向上させることで 食糧の安定供給に貢献

世界的な人口増加と世界経済の発展に伴い、安全・安心な食糧の需要が高まっています。住友化学がグローバルに提供している農薬は食糧の生産性を向上させることで、食糧の安定供給に貢献することを目指します。

#### Sumika Sustainable Solutions

住友化学の海外農薬事業の製品のひとつである植物生長調整剤は、Sumika Sustainable Solutionsに認定されています。この製品は、果実や野菜の実の付きを良くする、大きくする、品質を良くするなどの効果があります。また作物の開花期や熟期の調整が可能であるため、気候変動により低温化や乾燥化が進んだ地域での作物の栽培にも対応し、世界各地での食料増産に貢献しています。



ペーラントバイオサイエンス社の製品概要より